

ウニから始まるSDGs ～海の森づくり積丹方式～

白川 浩治 (しらかわ こうじ)
美国・美しい海づくり協議会 会長

水鳥 純雄 (みずとり よしお)
積丹町役場農林水産課 水産業技術指導員

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第7回コンクールで優秀賞を受賞した団体、「美国・美しい海づくり協議会」会長の白川浩治さん、積丹町役場の水鳥純雄さんにお話をお伺いしました。

《海の森づくり》

美国町は北海道の西側の日本海に突き出た積丹半島の先端に位置する町で、漁業を基幹産業としています。美国町を中心として「積丹ブルー」と言われるほど美しい海が広がり、積丹町の名産品ウニ料理を求めて観光客が訪れます。ところが、気候変動などの影響もあり、「磯焼け」の拡大で、ウニの餌となる藻場が減少し、ウニの生育にも影響するようになり漁獲量は徐々に減っていました。このため、地元漁業者が中心となりボランティアのダイバーや役場など関係機関が集まり、平成21年から藻場保全の活動を行う取り組みを始めました。ウニの安定供給を確保するためには、餌となるコンブが必要



藻場の再生コンブの森

になります。そのため、畑づくり、種まき、施肥など陸と同じように行われ、役場などの関係機関との連携もあり、14年間続けた活動でみごとなコンブの森を作り、藻場の再生に成功しました。その結果、実入りの良い極上のウニが生産できるようになりました。



美国・美しい海づくり協議会のメンバー

《ウニ殻肥料で環境保全》

長年、ウニのムキ身のための殻が廃棄物として年間100トンほど処理されてきました。このウニ殻も有効活用できないかと考え、コンブの肥



ウニ殻肥料づくり

料に使用することを試験的に行いました。ウニ殻肥料は、粉碎した殻に天然ゴムを混合するだけで少人数で誰でも簡単に作ることができます。なおかつ重機を使用しなくても設置できることから、コストも抑えられます。この取り組みにより、廃棄物として処理されていたウニ殻を再利用できることが実証され、養殖コンブの生育にも効果があり、環境にも優しく地元でウニとコンブの持続可能な循環型再生産を確立しました。また、コンブは加工食品や畜産飼料としても活用しています。このコンブの餌で育った羊肉は匂いもなくとてもおいしく、海から山へと積丹町の新しい名産品になるのではと考えています。

「今後は、積丹の海で培った技術や経験などを情報公開することで、北海道そして全国の環境保全に繋げていき、海の豊かさを守り、藻場の再生保護活動を維持していきたいです。この活動を続けていくことが、地域の活性化はもちろん、次世代の暮らしも守ることになる」とお話ししてくださいました。



コンブの餌を食べる「しおかぜ羊」

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。